

ケアプランセンターあすか通信

令和8年2月12日発行

第111号

発行責任者 富田啓暢

今年も、花粉症の季節



花粉症とは、花粉に対するアレルギー反応によって様々な症状があらわれる病気とされています。症状としては、目の充血や痒み、鼻の痒み、くしゃみ、鼻づまり、鼻水などです。

花粉症の治療は、内服薬、目薬、点鼻薬などの治療が行われますが、根治を目指す治療としては注射や舌下錠での免疫療法があります。花粉症の治療を希望される方は、一般内科や耳鼻科、眼科のクリニックを受診していただくとう良いでしょう。

花粉症の患者さんからの声

八十一歳のAさん

桜の季節、若い日の私は「花粉症」は重かった。「アレルギー性鼻炎」と耳鼻科の先生は診断して、飲み薬、粉や霧状、漢方やヨーロップの新薬とやら様々な治療を試してくださいました。

効果は一向に見られぬままに歳を重ね。ひどい年は、一晚中頭

が冴えて眠られず、鼻づまりで声が出ず、一日中涙が止まらず目は充血し顔が腫れた。それでも五月の連休でぴたりと止まった。

七十歳に近づくとう達観した。どうせ治らずとう治療の気力は衰えて、お医者様にはかからない。でもおかげ様、これで元気に生活する。年中止まらぬ「くしゃみ」の連発と鼻紙切らさずの毎日だが、もう少し頑張るぞと生きている。

十年くらい花粉症で悩んでいた四十代のBさん

鈴鹿に住んでいます。耳鼻咽喉科の病院で粉末の薬をいただいて、そのの医院で出してくれる液体を混ぜて、片方ずつ鼻の中に入れる処置をします。最初は、びっくりするぐらい汚れた鼻汁が出ます。それを毎日つづけると鼻がすっきりして、くしゃみも出ず、鼻水も少なくなり

ます。水や塩水を入れるとう鼻が、とうても痛いそうです。病院で、出してもらってください。

いつも私と歩いている姪っ子とその長女が、毎日行っているそ

うです。

六十代の女性Cさん

最初に症状を自覚した二十代前半。鼻水が自分の意思とは関係なく流れ続ける。鼻をかみすぎて傷になる。眠るときはタオル必須。次の症状は目のかゆみ。目薬は日に何度も使用したが、改善されず、ひたすらかゆみを我慢するのみ。少しでも目を触ってしまったらこすってしまった。目の周りが赤く腫れあがる。こすりすぎて白目がブヨブヨになっ

てしまうこともあった。洗濯ものや布団は外に干さない。上着等の素材は花粉の付きにくいものとする。帰宅時は花粉を落とす。花粉症の眼鏡を着用する等の対策をしてきました。現在、いつの頃からか花粉症の症状は改善されたのか鼻水、目のかゆみ、くしゃみに悩まされることは無くなりました。



花粉症に罹った人の経験談に、年とともに軽くなってきたとの話がありました。本当にそうでしょうか・・・

ロート製薬のプレス発表に掲載されている記事には、花粉症を実感している大人五百人に花粉症の症状の程度をたずねたところ世代が上がるほど「軽症」と答えた割合が高くなりました。

特に二十代の「軽症」三〇、一%「中等症」四九、三%「重症・最重症」一六、四%に対して、六十代以上では「軽症」六一、一%「中等症」三一、九%「重症・最重症」六、九%という結果でした。さらに花粉症の症状が「年齢を重ねるにつれて楽になってきたと感じる」と回答した人は、全体の一九、六%に対して六十代以上では二六、四%となりました。専門医の見解によると、世代が高いほど花粉症が軽症化する背景として、免疫系の衰え、環境の変化、食生活の変化などが関係していることが考えられるとの記事が掲載されています。

利用者の作品

写真

新宮市

中本良子さん

庭の桜の木にやってきた野鳥



ちぎり絵

紀宝町

元屋敷眞弓さん



絵手紙

熊野市

森本道子さん



紀宝町

元屋敷眞弓さん



作品

新宮市

大野千代さん



水墨画

新宮市

大坂和子さん

